

周藤彌兵衛翁像の贈呈及び除幕式

報告書

文責：交易場修

協議：堀江研次、本多宏美

日時：水循環基本法成立後初の「水の日」8月1日 午前10:00～11:20

場所：日吉親水公園（戦地に赴く若者を見送った、宮内庁直轄の御陵の前）

主催：周藤彌兵衛顕彰会、小松電機産業株式会社、一般財団法人人間自然科学研究所

出席：約200名



◇はじめに

300 年前、周藤彌兵衛翁は繰り返される洪水から村を守るため、56 歳から 97 歳まで 42 年かけ、霊山剣山の硬い安山岩を開削し、切り通しを完成させ、102 歳で大往生されました。現場に残るノミの跡が今日まで人々に感動を与え続け、翁の不屈の志と生き方は現代に生きる私たちに勇気と愛、平和の大切さを伝えています。

人間自然科学研究所は 1995 年、活動の第一歩として翁の小説・児童文学・漫画、朗読テープを発刊、シンポジウムを開催しました。八雲小学校では、1995 年、全国音楽科教育研究発表会で翁を題材にした歌「彌兵衛物語」が発表され、大きな反響を呼びました。

銅像の制作地は、鳥取県燕趙園の孔子・孟子像と同じ、中国山東省棗莊市です。棗莊市は、島根、鳥取、広島、岡山出身者で編成された松江六十三連隊を含む日本軍と、米・英の援助を受けた中国軍が戦った「台児荘(たいじそう)大戦」(1938 年)、で、双方に甚大な被害が出た地です。

「竹島の日」制定以降、尖閣問題、慰安婦問題、さらには核装備の縮小ではなく拡大など、北東アジアは戦後最も難しい状況になっています。

この度の式典は、八雲から北東アジアそして世界の恒久平和を生み出すきっかけにすることができたと確信しています。

プロジェクトチームとして役割を担っていただいた社員の方々はもとより、全社員の皆様のご協力に、心より御礼申し上げます。

◇式次第

1、開式の辞

安部信一郎 周藤彌兵衛顕彰会副会長

2、経過報告

石倉知樹 周藤彌兵衛顕彰会事務局長

周藤彌兵衛翁大銅像の寄贈者。小松昭夫氏は今から 12 年前の 2002 年、日中国交正常化 30 周年記念の年、その 9 月に中国山東省棗莊市で孔子、孟子、周藤翁、清原翁の 4 体の銅像を制作、中国側 3000 人、日本側 40 人の出席で銅像完成出発式が行われました。

その時制作された孔子、孟子像は 2003 年、鳥取県にある日本最大の中国庭園・燕趙園に建立されました。そして本年、同じ中国山東省棗莊市にて、2002 年制作当時より大きさ約 2 倍の大銅像を制作され、周藤彌兵衛顕彰会に寄贈いただきました。

この大銅像は、高さ 2.7m、幅 2.8m、奥行 1.7m、重さ 1.3 t あります。

周藤彌兵衛顕彰会では、ご本人の意思を受け継ぎ、八雲から世界恒久平和を生み出すことを念じ、出征者を見送ったこの地に、彌兵衛翁の大銅像を建立するに至りました。以上、ご報告いたします。

3、主催者あいさつ

矢野秀行 周藤彌兵衛顕彰会会長



(要旨)

本日、除幕させていただく銅像は、3代目周藤彌兵衛良利が自ら髪を振り乱して剣山の硬い岩へ左手にノミを持ち、そのノミを右手の槌で打ち込む様子を表現したものです。顕彰会では彌兵衛翁の偉業を讃え、広く沢山の皆様に知っていただくため、銅像の建立は長年にわたる私どもの願いであり、必ず実現したいと思っておりました。

そのような時、私ども顕彰会以上に彌兵衛翁に対する強い思いをお持ちで、今まで彌兵衛翁を題材にした本の出版や銅像の作成、「大志の郷」構想の提案などを行ってこられた小松電機産業株式会社代表取締役並びに人間自然科学研究所の理事長であります小松昭夫様より銅像のご寄贈のお話をいただき、大変ありがたくご厚意をお受けすることになりました。

そして、小松様のご希望もあり、本年新たに制定されました本日、水の日8月1日に除幕式を挙げるはこびになった次第です。

今回、時間的な制約もあり、銅像は仮設置といたしましたが、今後顕彰会といたしましては、銅像の本設置に向け、さらに活動を強化してまいりたいと考えております。また、本設置に際しましては、ただ銅像を設置するだけでなく、訪れた人に翁の偉業をさらに理解していただけるように、周辺整備を行い、ここを中心とした人々の交流や賑わい創造、創出の場所にしていきたいと考えております。

そのためには、県並びに市当局はじめ小松社長様、そして本日ご参集の皆様方のご理解とご支援が不可欠でございます。どうか皆様方におかれましては、当顕彰会の活動に対しましてご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。

4、銅像寄贈者あいさつ

小松昭夫 小松電機産業株式会社代表取締役・人間自然科学研究所理事長



(要旨)

ギリシャは直接民主主義の発祥地として世界に知られていますが、出雲を、この八雲の地を、間接民主主義の発祥地としてヨーロッパに認知してもらう流れをつくるために、オランダ・ハーグ、オーストリア・ウィーンで発表を行い、周藤彌兵衛翁の紹介もしてまいりました。

これまで、大ボラ、大風呂敷を拵けてきました。時代もどんどん煮詰まってきて、戦後70年の平和も危ういという状況になってきました。大風呂敷から大ボラに変え、大ボラもだんだん固まってきて、いよいよ大ボラを大風呂敷に包む時がきました。

長い時間軸と自然界の営み、そして科学と技術を組み合わせることによって、出雲から、この八雲の地から未来が開けると確信しております。

顕彰会の皆様には、本当によくここまでやっていただけるなど、その献身的なご活躍に感心いたしております。私はいろんな所に行きますが、こんな団体は他に無いと思います。顕彰会を中心とする八雲の皆さんと力を合わせて、周藤彌兵衛翁を全国、世界に広めていきたいと思っております。

この度の建立を機に、ここから名実ともに、世界平和の流れを生み出せるように、また、生み出すのが我々の使命であると感じております。

彌兵衛翁は56歳から97歳まで42年間、岩を切り続け、そして102歳で亡くなりました。私は、28歳の時に創業し、今70歳の古希ですので、翁と同じ42年がたちました。そういうこともあわせてタイミングを考え「よし、やろう!」と寄贈を申し出ましたところ、ぜひそれを生かして、この地から新しい流れを生み出したいという顕彰会の皆さんから勇気をいただきました。本当にありがとうございました。

5、目録贈呈

小松社長 ⇒ 矢野会長



【目録】

周藤彌兵衛翁大銅像一体

右、八雲から北東アジアそして世界の恒久平和を生み出すことを念じ、水循環基本法成立後初の「水の日」に贈呈いたします。

6、感謝状贈呈

矢野会長 ⇒ 小松社長



【感謝状】

小松電機産業株式会社代表取締役

人間自然科学研究所理事長

小松昭夫 殿

あなたはこの度の周藤彌兵衛翁銅像設置除幕式典を挙げるにあたり本会に翁像のご寄贈を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに多大なご貢献に記念品を贈り感謝の意を表します。

平成二十六年八月一日

周藤彌兵衛顕彰会

会長 矢野秀行

7、除幕



【除幕された方々】

小松昭夫 社長

矢野秀行 周藤彌兵衛顕彰会会長

細田敬二 島根県教育庁教育次長

浜田和幸 参議院議員

篠原栄 松江市議会副議長

清水伸夫 松江市教育長

篠本勝 日本水道新聞社社長

高田房枝 銅像をデザインされた故高田勲先生奥様

村尾靖子「悠久の河一周藤彌兵衛翁物語」作者

寺戸良信「悠久の河一周藤彌兵衛翁物語」挿絵画家

宍道正年 案内板文章作成者 松江歴史館専門官

佐々木武男 案内板文章作成者 松江市町内会・自治会連合会会長

ひよし保育園 園児 6 名

8、来賓祝辞

①細田敬二 島根県教育庁教育次長（溝口善兵衛島根県知事祝辞代読）



（要旨）

昨年夏、県西部では記録的な豪雨災害に見舞われました。昭和 58 年災害にも匹敵するような大雨になった一方で、人的被害が非常に小さかったことが印象に残っています。これは河川改修やダム建設などにより河川の安全性が向上したことによるものであり、治水対策の重要性を改めて認識いたしました。

こうした中、八雲町地区に於いて周藤彌兵衛翁の偉業を讃える銅像が建立されますことは、まことに意義深いことであります。

周藤彌兵衛翁による切り通し完成後、幾多の災害から、この地域の生命と財産を守ってきました。本日建立された銅像は、そうした歴史を現在に伝え、また後世にささげるものと思っております。

現在、意宇川が流れる斐伊川水系では、治水対策の締めくくりとして、大橋川の改修に着手したところであります。松江市街地の治水対策をあわせ、国、県、市が一体となって事業を進めております。周藤彌兵衛翁の治水への思いが引き継がれ、事業完成に向けて前進することを願っております。

本日はまことにおめでとうございました。

②浜田和幸 参議院議員



(要旨)

本日、8月1日の水の日に、この地域を守るために私財を投げ打って、42年間もかけて、自分の力で自然を変えていった周藤彌兵衛翁の一生を讃える銅像が建立されました。今日はすばらしい記念になる日ではないかと思います。・・・

今、日本水道新聞に「悠久の河～周藤彌兵衛翁物語」が連載されています。これを読みますと、どうやって、自然の心を理解したうえで、人々の役に立つような仕事をするのか、ということが書かれています。木には木の心、水には水の心、石には石の心がある。その心がわからなければ、いい仕事はできないということを言い残しています。

水というのは味方にすれば、とても強いパワーを発揮します。我々人間の生命の源ですから。しかし、敵に回せば、こんなに恐ろしい存在はありません。水害も津波も本当に猛威を振るう。しかし、そういった水や自然の心を理解することによって、自然と共に生きる、共生する、そういうことがこれからの時代、日本が世界に向かって発信する、大きなメッセージではないかと思います。

先般、中国の程永華大使をお招きしてセミナーを開きました。今、日中関係は凍っているような、戦後最悪といわれています。この両国の関係に新しい突破口を切り開くことが必要です。

この銅像は、中国の山東省で作られた。まさに日本と中国の合作の象徴でもあるのです。たしかに、政治的な面では両国関係は冷え切っているのですが、実際には、地域間交流、民間の経済交流、スポーツ交流はどんどん裾野が広がっています。一部のメディア、一部の人たちが日中関係を、あえて問題をあおるようなことをしている。そういうことに厳として立ち向かう。その最初の一步を踏み出すことがいかに大事か。

周藤彌兵衛翁も、水をコントロールするとか、剣山を切り開いて水路を作るとか、皆にそんなことはできないと思われていた。皆に反対されながら、しかし、地域のために最初の第一歩を踏み出したから、次の第2歩、第3歩につながった。

そういう意味で、顕彰会の皆様や小松社長は勇気ある一步を踏み出されたわけですから、我々も地域の垣根を越え、党派を超えて、新しい時代にふさわしい、世界に誇れるような、この出雲の地から、水神様をたてまつって、次の一步を踏み出す必要があります。

今、中国が困っているのは環境問題、水問題です。そういうことに対して、日本の持っている技術の力、日本人が誇るべき自然と共に生きる価値観、そういうものをミックスして、日中関係が世界の2国間関係のモデルとなるように、ぜひこの機会に、皆さんと一緒に考え、次の第2歩、第3歩を踏み出していただきたいと思います。お祝いのかねて駆けつけてまいった次第です。

③浅野俊雄 島根県議会議員



(要旨)

小松社長は八雲の岩坂のご出身です。ふるさとかから世界平和をスタートさせると言っておられます。70 になったばかりで、まだまだ若いのですから、これからもどんどん輪を広げていていただくよう、心からお祝い申し上げます。

国会議員も、我々県会議員も、税金を使って地域のためにお世話をすることはありますが、周藤先生は私財を使って、自分の命をかけて、地域のために切り通しを開いていただいた。

我々議員は反省しなければなりません。役所の税金を使ってやる仕事は、それは当たり前のことです。周藤先生はそうではない。私財を使って、体を投げ打って地域を守られた。本当に偉大な先達であることを、我々も子どもも一緒になって、大した人だったなあ心から感謝し、そして世界にもそのことを広めていく。

私はこの銅像を見ながら、日々反省して過ごさなければならない。そういう場を小松社長が作ってくださったことを心から感謝して、あいさつとします。本当におめでとうございました。

④篠原栄 松江市議会副議長 (三島良信議長祝辞代読)



(要旨)

今日まで式典の準備に当たられました顕彰会の皆様はじめ関係各位のご尽力に対して衷心より敬意を表しますとともに、感謝申し上げます。

この度、こうして地元八雲町に、周藤彌兵衛翁の銅像が完成したことは同慶の至りです。

松江市は今、大橋川の改修という大きな治水事業に取り組んでおりますが、治水に対する先人と言うべき彌兵衛翁の思いは、今日の私たちも大いに見習わなければならないと思います。

⑤篠本勝 日本水道新聞社社長



(要旨)

わが社は昭和 29 年に創業し、今年でちょうど 60 年、還暦を迎えます。水道、水の関係一筋の商売を、真面目に着実にやってきております。これからもしっかりと水の大切さを訴え、ニュースを発信してまいりたいと思っております。

今日、このようなすばらしい除幕式に参加させていただき、大変名誉なことだと思っております。これもひとえに、小松社長のご支援の賜物だと思っておりました。

今日の思いをしっかりと頭の中にたたき込んで、いい新聞づくりと、いい水の使い方、それから水をきれいにしていくという大きな役割を頭に入れて、この地をまた訪れたいと思っております。

こんなすばらしい銅像がここにあるということは、まさにこの地の誇りだと思えます。私は今日のことを、全国の水、水道の関係者にしっかりと伝え、ここは周藤彌兵衛翁の水の聖地（メッカ）であることを伝えてまいりたいと思っております。

⑥高田房枝 銅像デザインの故高田勲先生の奥様



今日はお招きいただき、感謝しております。

島根県出身者として、少しでも、この立派な銅像のお手伝いをさせていただいたことを誇りに思っています。

本日はどうもありがとうございました。

⑦村尾靖子 「悠久の河—周藤彌兵衛翁物語」 作者



(要旨)

この銅像のモデルになったのが、故・高田勲先生が描かれた、この本の表紙の周藤彌兵衛翁です。この像を作るときも、高田先生は小松社長と一緒に中国に行かれ、いろいろと指図をされて、それが最後の大きな仕事になったのだと思います。

小松社長から、周藤彌兵衛のことを書かないかというお話をいただいた時が、社長にお会いした最初でした。私も今年で70になりますけど、今までの人生の中で、たくさんの方にお会いしてきましたが、小松社長のような種類の人にお会いしたのは初めてでした。

八雲はどこですか、と私が聞いたら、普通の人は八雲町の地図を持ってきて「ここで

すよ」と説明される。もう少し大雑把な人だと、松江市の地図を持ってきて、松江のここら辺にあるのが八雲町ですよ、と説明されるんですけども、社長は日本地図ではなく、いきなり世界地図を持ってきて、ここが八雲ですよと、世界地図の中の日本を指さしておっしゃる。すごい人だなあ、と思いました。これからお付き合いをしていいものかどうか大変悩みました。

私の最初の本「命をみつめて」で一緒に仕事をしていただいた、島根県の赤来町ご出身の高田先生に「この方と付き合っていく自信がない」と相談したところ、「自分は話を聞いて、とても立派な方だと思うから、とにかく二人でやろうじゃないか」と言われ、このお仕事をさせていただきました。

彌兵衛翁が42年間、ノミと槌で毎日掘っていかれたという現場を見せていただいて、小松社長がどうであれ、これは書かなくてはならないと思いました。そして、彌兵衛翁はもちろんですけれども、これを支えた奥さんや子どもについて、女の立場として、どういう方だったんだろうなあと思いが広がりました。それで、家族の絆とか、指導者としてどうしてもやらなければならないことなどを中心に書きました。

最近の世界の指導者でもそうですが、何かトップが変わるたびに方針が変わったり、せっかく今まで進んできたことが変わったりして、一本筋の通った人が、昔より大変少なくなった気がしております。

そこで、何年かたって、「これをもう一回書き直して、政治をやる人とか、大人も読める本にして、すべての人に読んでもらいたい」と社長の所に持っていきましたら、社長のほうでもそういうことを計画されていて、今回のこういう除幕式になったり、日本水道新聞に連載していただけることになりました。

小松社長に頼んで、連載中でも、早めに本にさせていただいて、多くの人にぜひ手に取って読んでいただきたいと思います。

周藤翁は村のため、自分があずかっている民のためということを前面に打ち出して、42年間必死に岩を切り続けられたということに私は人として非常に心打たれました。私は昭和19年に生まれて、20年7月1日の宇部空襲で火傷をして、九死に一生を得ました。そのことが、最初の作品の原点です。そういうことを全部含めて、今は小松社長にご縁があったことを、心から喜んでおります。

高田先生が一生懸命になって絵を描かれて、これが銅像という形になって、そしてこういう形で奥様に除幕式をプレゼントされた。もし、ここに高田先生がおられたら、大変喜んでおられると思います。「立派なご主人だったんだなあ」と奥様に申し上げました。

私は、この仕事を通じて、みんなが幸せをいただいたような気がしています。

村の方々の結束力が、今日の立派な式をつくってきたのだと思いますが、私も一生懸命書くことを通じて、これからも学ばせていただきたいと思います。

おめでとうございました。

◇メッセージ

金顕哲 人間自然科学研究所顧問

代読：金美正 コマツコリア マーケティング本部長



周藤彌兵衛翁銅像除幕式を、真心からお祝い申し上げます。

私が最初に周藤彌兵衛翁の物語を聞いたのは、7年ほど前の事でした。

「山を切り通して、洪水の原因になる曲流を直流に川の流れを変更する」という話を、私は半信半疑、信じられませんでした。

その後、切り通した剣山の山間を、きれいに流れている意宇川を直接現場で確認して、周藤彌兵衛翁の大課業を直感することができました。

自然界の環境問題は昔から存在していたものですが、300年前の昔、周藤彌兵衛翁は既に環境問題を解決、実行した最初の日本人、もしかしたら世界最初の人かも知れません。意宇日吉村を中心に60余村が、2、3年毎に襲われる川の氾濫、洪水で田地、村が浸水被害を受け、水びたしになるのを防ぐため、下郡（したごおり）役を引退して52の年から40余年間、97の年になるまで、切り通し大工事に執着した周藤彌兵衛翁の物語は、実に現代を生きる全世界の人々に伝えたい「人間ドラマ」です。

特に周藤彌兵衛翁のこの物語を通じて知らせたい事は、○大事な事を実施する前に充分なる調査と研究を通しての企画力 ○緻密、徹底的な執行力 ○人類の安定的生活のための犠牲精神等、いわゆる周藤精神（Sutoh-Spirit）です。特に環境問題分野に従事している人達には、有効な参考書になる事と存じます。

韓国でも小松昭夫理事長の熱誠のもと、2010年、漫画版を出版。出版記念会も盛大に挙行了しました。

なるべく多くの外国に知らせたい、日本の環境問題の偉人の物語です。地方政府で、積極的に世界に向け宣伝・広報に参加してほしいです。

剣山の切り通した現場を観光地として造成する案を考えてみるのもよい事だと、私は一人で思いました。青少年、学生達の現場教育に活用するのも、周藤彌兵衛翁の精神を確実に勉強する一つの方法だと思います。

21 世紀現時代、また未来の時代に生まれて使命を尽くした人物が、この世に生まれる事を期待しております。

剣山の切り通した山間を静かに流れる意宇川が、韓国にいるこの私の目に浮かんできます。

剣山の山神霊、龍神様もきっと周藤彌兵衛翁の成就した大課業をほめていらっしやると私は思います。

小松昭夫理事長の周藤彌兵衛翁に対しての尊敬心と執念心は、私には一人で重い荷物がかついで坂を登り歩く人のように見えて気になります。300 年の昔、松江藩が周藤彌兵衛翁の大課業遂行をあまり支援しなかったように…。

このような大業を達成した偉人の物語は、その地方の官庁、顕彰会が先立って広報宣伝すべきだと私は考えております。

私が尊敬する周藤彌兵衛翁の銅像除幕式に参加できない私をお許しく下さいませ。

2014 年 7 月 29 日 金顕哲

11、万歳三唱

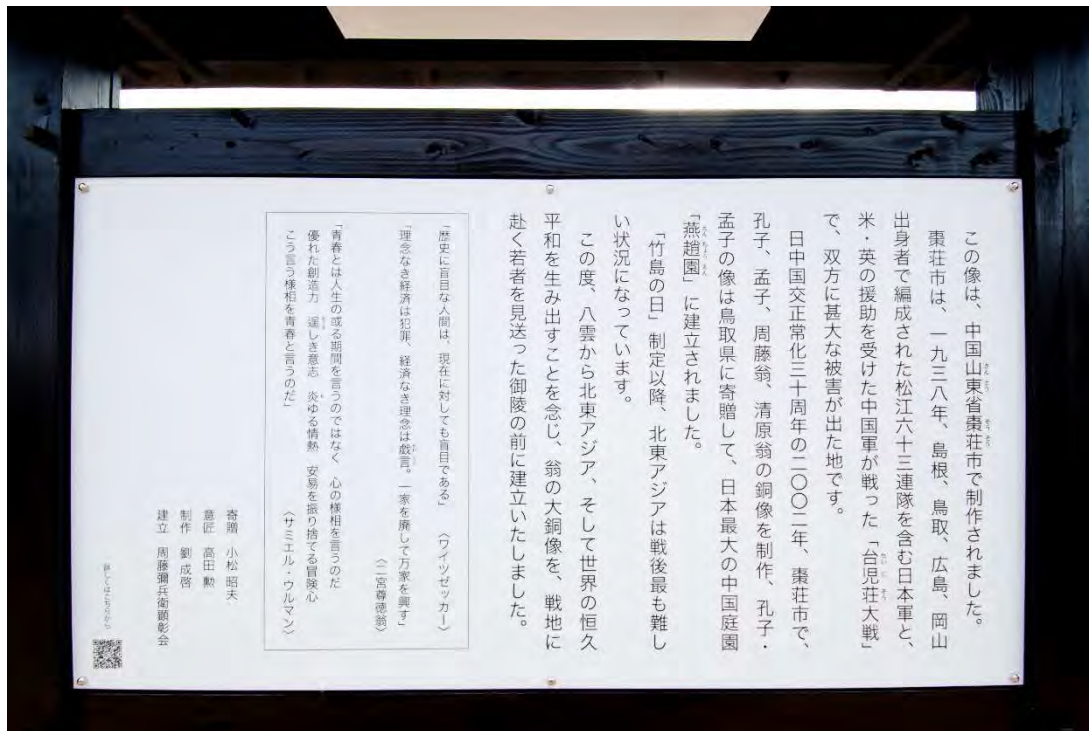
発声：角智子 島根県議会議員



12、閉式の辞

安部信一郎 周藤彌兵衛顕彰会副会長

【銅像案内板】



◇周藤彌兵衛翁大銅像贈呈及び除幕式 報道記事

町おこしに生かしたい 周藤弥兵衛銅像の除幕式

松江・八雲



周藤弥兵衛の銅像を除幕する関係者

松江市八雲町を流れる意宇川を江戸時代に開削した周藤弥兵衛（1651～1752年）の功績をたたえる銅像の除幕式が1日、同市八雲町日吉の意宇川沿いであり、関係者や住民約170人が祝った。

銅像は高さ2・65メートル、幅2・8メートルで、意宇川をふさいでいた岩山をのみとつちで開削する姿を表現している。財団法人・人間自然科学研究所（小松昭夫理事長、松江市乃木福富町、小松電機産業内）が制作し、地元の周藤弥兵衛顕彰会（矢野秀行会長）に寄贈した。

銅像は現在、仮設置されており、今後、別の場所に置く計画。

2014年8月2日（土）山陰中央新報

弥兵衛の銅像完成

松江で除幕式 治水に尽力

江戸時代、日吉村(現

・松江市八雲町日吉)

を洪水の被害から守るため、治水に尽力した周藤弥兵衛(1651〜1752年)の銅像が完成し、1日に日吉親水公園(松江市八雲町日吉)で除幕式があ

った。

弥兵衛は松江藩の官

吏で、意宇川の水害に

悩まされてきた村を守

るため、56歳の時、の

みとつちだけで岩山を

切り開き始めた。私財

も投じ、42年間かけて

川の流れを変え、村を

救った。今でも現場に

はのみの跡が残る、「切

通し」と名付けられ、

多くの市民に親しまれ

ている。

銅像は高さ2・65

メートル、重さ1・3ト。郷

土の偉人を顕彰する出版

活動などを続けてきた

「小松電気産業」(松

江市乃木福富町)の小

松昭夫社長が制作を決

断した。飯南町出身の

画家、故高田勲さんの

イラストを基に、のみ

とつちを持ち、躍動感

あふれる弥兵衛の像と

なった。

この日の式典には、

地元や関係者ら約12

0人が出席。小松社長

から、地元で弥兵衛を

紹介する活動などに取

り組む「周藤弥兵衛顕

彰会」(約40人)の矢

野秀行会長に銅像が贈

られた。

矢野会長は「(銅像

建立は)長年の願いだ

った。素晴らしい偉業

をたくさんの人に知っ

てもらいたい」と話し

た。小松社長も「ここ

が平和と水の聖地にな

ってほしい」と語った。

【長宗拓弥】



披露された周藤弥兵衛の銅像—松江市八雲町日吉で

“治水の偉人”の銅像が完成

松江

周藤彌兵衛顕彰会が除幕式

松江市乃木福富町の小松電機産業株式会社（小松昭夫社長）が、同市八雲町で切り通しを開削した治水の偉人、周藤彌兵衛の銅像を作り、周藤彌兵衛顕彰会（矢野秀行会長、38人）に寄贈した。銅像は同町の日吉親水公園内の民有地に設置され、1日に除幕式が行われた。

小松電機産業が寄贈

同社は総合水管理システム「水神」を主力製品としており、小松社長が理事長を務める財団法人人間自然科学研究所を通じて、出雲地方の治水の偉人である周藤彌兵衛、大堀七兵衛、清原大兵衛の出雲三兵衛の顕彰を支

援、推進している。同町は小松社長の出身地でもある。設置された銅像は、高さ2・65m、幅2・8m、奥行1・7mで、重さは1・3ト。山陰で組織された歩兵第63連隊を含む北支那方面軍と中国軍が激突した

台見荘の戦い（1938年）の舞台となった中国山東省済南市で、約5カ月かけて制作した。デザインは飯南町出身の童話挿絵画家、故高田勲さんによるもの。銅像のモデルとなった周藤彌兵衛の3代目、良利（1651-1752）は、当時はららんを繰り返してい

た同町を流れる意宇川



を直線化しようと、1706年、川の流れを大きく迂回させていた剣（つるぎ）山で、切り通し工事を開始。以後40年以上にわたり、非常に固い石英安山岩の岩山に槌（つち）をふるい、鑿（のみ）を打ち、1747年に「日吉切通し」を完成させている。

今年4月に公布、7月に施行された水循環基本法において法定化された「水の日」に合わせ行われた除幕式には、矢野会長、小松社長のほか、関係者や地域住民約120人が参加。矢野会長は「周藤彌兵衛翁がいなかったらこの地域はなかった。銅像の設置は、会にとって長年の願いだった」と話し、小松社長に謝辞を述べた。小松社長は顕彰会について「これほど献身的な団体はないと思う」とその活動を称え、「これから世界平和の流れを

生み出すのが我々の使命。出征兵を見送ったこの地から、自然の営みと新しい科学と技術を組み合わせた新しい潮流を世界へと発信していきたい」と銅像設置への思いを語った。

来賓や地元の子供たちが保育園の園児らによつて銅像から幕が外されると、その迫力ある姿に大きな拍手が送られた。鳥取県選出の浜田和幸参院議員は、来賓あいさつで「島根や鳥取といった地域の垣根を越えて、広い視野で物事を考える時代。中国で作られたこの銅像の設置を機に、自然と兵に生きるこそ、日本から世界に発信するメッセージ」と述べた。

除幕された周藤彌兵衛の銅像。1日、松江市八雲町の日吉親水公園

彌兵衛翁の銅像除幕

偉業を称え
「水の日」に 小松電機産業が寄贈

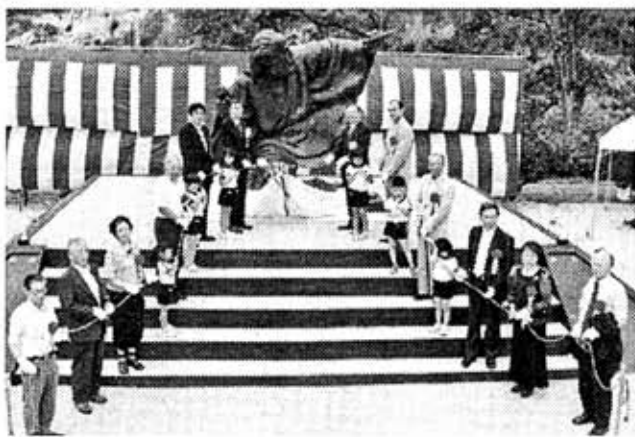
本紙が7月7日付から連載している「悠久の河 周藤彌兵衛翁物語」(村

尾靖子作)の舞台となった松江市八雲町日吉の日吉親水公園で1日、主人

公・周藤彌兵衛翁の銅像除幕式が、来賓はじめ関係者ら約200人が出席して盛大に行われた。この日は水循環基本法の制定後、法制化された初の

「水の日」。彌兵衛翁の不屈の志と生き方、勇気と愛、平和の大切さを伝える格好の日となった。

式典は周藤彌兵衛顕彰会(矢野秀行会長)、小松電機産業(小松昭夫社長)・人間自然科学研究所が主催。来賓はじめ地元のひよし保育園の園児



高さ2.65mの銅像を披露

らによって銅像から幕が外され、大きな拍手が沸き起こった。

銅像は高さ2.65m、幅2.8m、奥行1.7mで重量は1.3ト。中国・山東省棗庄市で約5カ月かけて製作。デザインしたのは、本紙連載「悠久の河」の挿絵を描いた飯南町出身の童話挿絵画家、故高田勲さん。

主催者を代表して矢野会長は「今まで彌兵衛翁を題材にした本の出版や銅像の制作、『大志の都』構想の提案などを行ってこられた小松昭夫小松電機産業社長・人間自然科学研究所理事長から銅像寄贈のお話をいただき、ありがたくそのご厚意をお受けした。ただ設置するだけではなく、訪れた人に彌兵衛翁の偉業をさらに理解していただき、この地を中心とした人々の交流や賑わいを創出していきたい」と述べた。

小松社長は「顕彰会を中心に彌兵衛翁の偉業を世界に広めたい。この建立を機に世界平和の流れを生み出すのが私の使命。自然の営みと新しい科学技術を組み合わせた新たな潮流を世界へ発信していきたい」と、建立の熱い思いを語った。

来賓の浜田和幸参議院議員は「水は味方にすれば強いパワーを発揮するが、敵に回せばこれほど恐ろしい存在はない。水害も津波も猛威を振るう。しかし、そういった水や自然を理解し、自然とともに生きることこそが、これからの時代、日本が世界に向かって発信すべき大きなメッセージではないか」と建立の意義を語った。

◎GS21 9月5日に市民環境学校◎ グリーンサイエンス21は9月5日、東京・水道橋の全水道会館で第20回市民環境

水の偉人の銅像を贈呈

小松電機
産 業

松江市内に設置し除幕

周藤彌兵衛翁像の贈呈および除幕式（主催 小松電機産業など）が1日、松江市八雲町

の古親水公園で行われた。私財を投じて山を開削し、河川改修した水の偉人の業績をた

たえるもので、関係者ら約200人が出席した。周藤彌兵衛顕彰会事務局長の経過報告、同会会長のあいさつに続き、銅像を同会に寄贈した小松昭夫・小松電機産業代表取締役（一般財団法人人間自然科学研究所理事長）が「水循環基本法の成立後初となる水の日に、銅像

を寄贈できて光栄。今後とも協力し、偉人の業績を国内外に広めたい」と決意を述べた。目録や感謝状の贈呈に続き、関係者や地元園児らが除幕。また、来賓の島根県教育庁教育次長、地元選出の国会・県議会議員、市議会副議長らが祝辞を寄せ、万歳三唱で設置を祝った。

設置された銅像は高さ2・7㍎、幅2・8㍎、奥行1・7㍎で、重さ1・3㍏。周藤彌兵衛は約300年前、現在の松江市内を流れる意宇川の洪水被害を防ぐため、56歳から97歳までの42年間、山をノミと槌で切り開き、河川の切通しを完成させた。



小松社長ほか関係者らが除幕



小松社長